

3 将来戦略プラン

3.1 宇治市における発展の基本的理念

(1) 発展とは

本市は、大都市（京都・大阪）の衛星都市として、人口の増加とそれに伴う都市基盤施設の整備とともに発展してきました。しかし、今後人口の増加が見込めない中では、新しいものを増やすだけでなく、今あるものを効果的に活かしながら、まちにとって必要な活力を生み出していかねばなりません。

このため、宇治に関わる全ての人が宇治の魅力を感じ、地域への愛着を深め、もっと活力のあふれた人がいきいきと行き交い、にぎわいのある状態をまちの発展と定義し、この発展をまちの目指すべき将来像と位置付け、まちづくりに取り組みます。

(2) 取組推進の視点

本市には、人、文化、自然などこれまで培われてきた多岐にわたる資源があり、これらの魅力を最大限に活かしていくことが大切です。施策や取組を進めるにあたっては、効果的な魅力の活用を認識しながら、魅力を創り出していくこととします。

①魅力の再発見

すでにある資源について状況を確認するとともに、あまり知られていない魅力、埋もれている魅力を再発見することによって、新たな活用の可能性を追求します。

②魅力の向上

資源を十分に活かすとともに、これまでの施策の成果を見直し、幅広い視点でアイデアを検討し、再構築します。

③魅力の創造

埋もれている資源の発掘や、個別の魅力・要素同士の組み合わせなどにより、今までにない資源を新しく創ります。

④魅力の発信

様々な手段によって効果的に魅力を発信し、市内外のターゲットに本市を知ってもらい、理解を深めてもらいます。

3.2 基本的理念の実現に向けた方針

発展の基本的理念を実現するために、次の方針のもと、様々な取組を推進していきます。

(1) 確固たる宇治ブランドの確立

民間のシンクタンクの都市のブランド力の調査では、本市は1,000自治体中の上位に位置しており、全国でも有数のブランド力があるまちとなっています。

しかし、宇治のイメージは京都ブランドに従属したイメージではないかとも考えられ、人口減少で自治体間の競争が激しくなれば、他のまちとの差別化を図っていかなくてはなりません。

そのため、人を惹きつける宇治ブランドを確固たるものとして、様々な場面で「選ばれるまち」となり、交流人口の増加はもとより、定住人口の減少に歯止めをかけるため、社会動態の増加を目指します。

確固たる宇治ブランドの確立を目指して、物理的な都市空間である「景観・まちなみ」はもとより、市民の先進的な様々な活動、歴史・文化を媒介とした人と人のつながり、効果的な情報発信の仕組みなど、本市の特色を活かしたまちのデザインのあり方を検討します。

(2) 地域をつくる新しい仕組みづくり

既存の組織・団体や民間・行政の枠にとらわれず、まちづくりへの誇りを共有し、それぞれが様々な立場からまちづくりに関わる新しい仕組みづくりを検討します。また、より積極的な活動を行う人材の発掘・育成を検討していきます。

(3) まちの魅力を高める都市基盤の整備

人や物の交流が活発に行われるには都市基盤が不可欠であり、人口減少社会も見据え、宇治のまちの発展を継続させるために、真に必要な都市基盤の整備を進めます。さらに、既存の公共施設のあり方を見直し、まちの中を様々な人が行き交い、集うための整備を検討します。

また、平成34年にはJR奈良線の高速化・複線化第2期事業の完了が、平成35年には新名神高速道路の開通が予定されており、本市を取り巻く交通環境が大きく変化します。これらの都市基盤を活用したまちづくりを検討します。

(4) 地域経済の活力づくり

本市の発展を支え、地域の活性化に貢献している企業は多数存在しています。これらも、引き続き、本市に愛着を持って、まちとともに元気に成長する多様な企業が存続できるよう、市内の経済構造を分析し、地域経済の活性化や、まちの活力につながる企業の発展・維持を目指した新たな産業振興の基本的な戦略を検討します。

3.3 基本的なまちづくり施策


方針に基づき、次の基本的なまちづくり施策に取り組めます。

(1) 確固たる宇治ブランドの確立

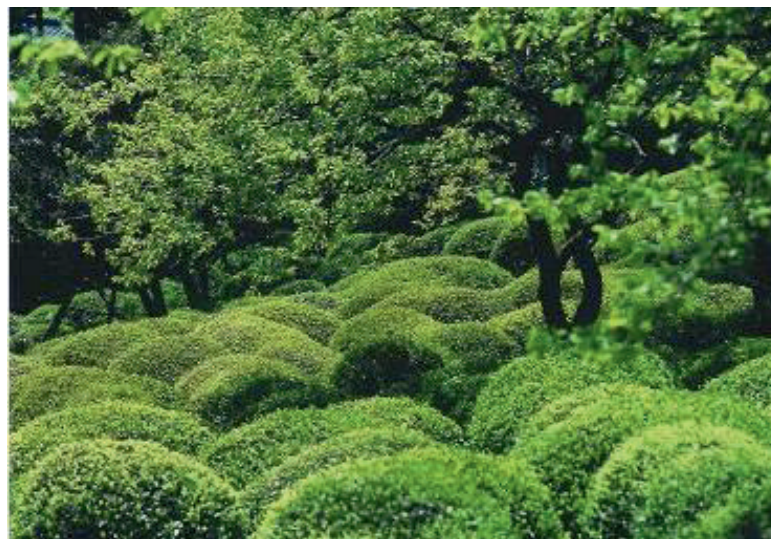
まちづくり 施策	1	魅力発信の仕組みづくり		
内 容	<p>多くの人に選ばれ、持続的に発展するまちとなるため、効果的にまちの魅力の情報を発信し、国内だけでなく、アジアをはじめとした世界のたくさんの人々に宇治のまちの魅力を理解してもらう必要があります。</p> <p>このため、市民、事業者、関係団体、市役所の協働により、本市の様々な魅力を発掘、創造し、発信する仕組みの構築を目指して、魅力発信の行動指針を、市民、事業者、関係団体、市役所の参画・協働で策定します。</p> <p>また、平成32年（2020年）に東京で開催されるオリンピック・パラリンピックを宇治のまちの魅力を世界に広める千載一遇の機会ととらえ、市民、事業者、関係団体、市役所の協働による情報の発信を目指します。</p>			
主な取組 の工程表	第2期中期計画 (短・中期的取組)		第3期中期計画 (中期的取組)	
				次期総合計画以降 (長期的取組)

まちづくり 施策	2	地域ブランドの強化		
内 容	<p>「宇治茶」、「源氏物語」などの資源をより有効に活用するため、市内産「宇治茶」のブランド化を進めるとともに、源氏物語に、日本国内だけでなく、世界の人々が親しんでもらえるよう、平成30年に20周年を迎える源氏物語ミュージアムの情報発信機能をより一層充実します。</p> <p>また、その他の魅力的な資源の発掘、創造により新たなブランドの確立を目指します。</p>			
主な取組 の工程表	第2期中期計画 (短・中期的取組)		第3期中期計画 (中期的取組)	
				次期総合計画以降 (長期的取組)

(注) 第2期中期計画は平成26年度から29年度、第3期中期計画は平成30年度から33年度、次期総合計画は平成34年度以降

まちづくり 施策	3	観光振興		
内 容	<p>平成25年4月に策定した宇治市観光振興計画に掲げた目標である「観光都市・宇治のブランド力を高める」の実現を目指し、3つの基本方針「宇治らしさを極める」、「おもてなし力を極める」、「情報発信力を極める」に基づき各種施策を展開します。</p> <p>また、平成32年（2020年）東京オリンピック・パラリンピックが開催されるまでの7年間は、「日本」に世界中の注目が集まることが期待され、さらに、多くの外国人選手をはじめとする訪日外国人が多くなることが予測されます。この絶好の機会を逃すことがないように、中期的取組として、宇治の魅力を世界に発信するとともに、訪日外国人の受け入れ環境の充実を積極的に促進します。</p>			
主な取組 の工程表	第2期中期計画 (短・中期的取組)		第3期中期計画 (中期的取組)	次期総合計画以降 (長期的取組)
				

【茶畑】



【源氏物語ミュージアム】



(2) 地域をつくる新しい仕組みづくり

まちづくり 施策	1	新たなコミュニティの形成と地域活動等人材の育成		
内 容	<p>にぎわいのあるまちとなるためには、町内会や学区など一定の区域のもとでの地縁的な結びつきのコミュニティと、特定のテーマや関心で人々が結びつくNPO等のコミュニティの双方の活性化と連携が重要な役割を担います。</p> <p>現在、地域コミュニティ推進検討委員会で検討している地域コミュニティや協働のあり方の検討結果を踏まえ、新たなコミュニティ施策を推進します。</p>			
主な取組 の工程表	第2期中期計画 (短・中期的取組)		第3期中期計画 (中期的取組)	次期総合計画以降 (長期的取組)

まちづくり 施策	2	都市間連携の推進		
内 容	<p>宇治のまちの資源だけでなく、市域の枠を超えて存在する地域の様々な資源を連携・活用することにより、宇治のまちの魅力をより一層高める取組の検討が必要です。特に、JR奈良線の高速化・複線化第2期事業や新名神高速道路の開通などにより木津川右岸を中心とする地域の連携は重要であり、宇治茶ブランドの世界への発信など、まちづくりの総合的な都市間連携を検討し、広域的な発展を目指します。</p>			
主な取組 の工程表	第2期中期計画 (短・中期的取組)		第3期中期計画 (中期的取組)	次期総合計画以降 (長期的取組)

(3) まちの魅力を高める都市基盤の整備

まちづくり 施策	1	発展を支える基盤づくり		
内 容	<p>本市を取り巻く交通環境は、京都第2外環状道路の開通や今後予定されている新名神高速道路の開通、JR奈良線の高速化・複線化第2期事業などにより、大きく変化していきます。これらの変化を踏まえ、今後の本市の都市基盤のあり方を検討する必要があります。</p> <p>特に交通環境の変化は、本市の産業や観光などに大きな影響があると予測されるため、今後検討する新たな産業振興の基本的な戦略等と連携して、都市基盤や産業基盤のあり方を検討します。また、JR奈良線の高速化・複線化第2期事業を、より効果的なものとするため、沿線の駅前広場の整備や地域の魅力向上に資する都市基盤の整備を推進します。</p>			
主な取組 の工程表	第2期中期計画 (短・中期的取組)	第3期中期計画 (中期的取組)	次期総合計画以降 (長期的取組)	

まちづくり 施策	2	公共施設のアセットマネジメント		
内 容	<p>公共施設は、コミュニティ活動の場として重要な役割を担います。時代に応じて求められる機能は変化しており、今後市民ニーズを把握し、時代に即した公共施設のあり方を検討します。一方で、老朽化が進んでおり、人口減少も見据えた整備更新も含め、検討が必要です。</p> <p>このため、これらを踏まえつつ、過大な負担を次世代に残さない公共施設の維持・管理等の基本的な戦略として、公共施設アセットマネジメントの導入に取り組みます。</p>			
主な取組 の工程表	第2期中期計画 (短・中期的取組)	第3期中期計画 (中期的取組)	次期総合計画以降 (長期的取組)	

まちづくり 施策	3	まち巡りを仕掛ける基盤づくり		
内 容	平成30年の源氏物語ミュージアム20周年、平成32年（2020年）東京オリンピック・パラリンピックの開催に照準を合わせ、（仮）太閤堤跡歴史公園の整備をはじめ、回遊型の都市基盤の整備を進めるとともに、世界文化遺産等の歴史・文化資源等を活かして、楽しく歩ける宇治のまちを実現する仕組みを検討し、観光客の滞在時間の延長と市民の健康長寿日本一に取り組みます。			
主な取組 の工程表	第2期中期計画 (短・中期的取組)		第3期中期計画 (中期的取組)	
	次期総合計画以降 (長期的取組)			

【宇治川宇治橋上流】



【市営茶室対鳳庵】



【宇治川太閤堤跡】



(4) 地域経済の活力づくり

まちづくり 施策	1	地域経済の活性化		
内 容	本市の経済構造分析を行い、効果的に地域経済を活性化するための施策を、商工会議所や茶関係団体、観光協会などの地域経済を担う関連団体をはじめ、国・京都府と連携して実施し、より一層本市の地域経済の好循環を促進します。			
主な取組 の工程表	第2期中期計画 (短・中期的取組)		第3期中期計画 (中期的取組)	次期総合計画以降 (長期的取組)

まちづくり 施策	2	元気な企業づくり		
内 容	本市を取り巻く交通環境が、新名神高速道路の開通、JR奈良線の高速化・複線化第2期事業などにより大きく変化していくため、都市基盤のあり方と連携して、産業振興の基本的な戦略を新たに策定します。 また、本市に愛着を持って、まちとともに元気に成長する多様な企業が集積、存続し続けられるよう、まちの活力につながる企業の発展・維持を目指した取組を推進します。			
主な取組 の工程表	第2期中期計画 (短・中期的取組)		第3期中期計画 (中期的取組)	次期総合計画以降 (長期的取組)

まちづくり 施策	3	産学官連携によるまちづくり		
内 容	本市及び近隣市町に立地している多くの大学や研究機関などと、相互補完的な連携を図る仕組みづくりを進め、産学官連携でそれぞれに持つ資源等を積極的に活用し、地域経済の活性化をはじめとしたまちづくりを推進します。			
主な取組 の工程表	第2期中期計画 (短・中期的取組)		第3期中期計画 (中期的取組)	次期総合計画以降 (長期的取組)